



1 学年通信

まじめな努力 = 楽しい時間

担当：武藤透

竜樹（りゅうじゅ）の「空（くう）」



竜樹（150 頃～250 頃）は教科書にも出てくるインド大乘仏教の祖だ。

龍樹はこんなことを言っている。

「**この世界はすべてフィクション**」であると。

竜樹の「空」を掘り下げよう。たとえば「ミッキーマウスは存在するか？」と聞かれたらどう答えるだろうか？「いる」とも「いない」ともきめられない。この絶妙な感じ。これが「空」なのだ。

竜樹は言う。この世界は「**ことばの魔法**」が生み出した幻なのだ。

「ファミチキ」は蝶ネクタイのかわいらしい包装をまとったチキン。でも冷静になってみればただのフライドチキンだ。ファミチキと名付ければ親しみやすくポップな幻が突然現れる。「鼻セレブ」も同じ。セレブの幻を見せる本当は湿っただけの「はながみ」。これがことばの魔法の正体。よくわからない幻を言葉は作り出す。

そして龍樹は言う。

「兄」と「弟」どっちが先に生まれた？ 常識で考えたら「兄」が先に生まれた。でも答えは「兄」と「弟」は『同時』にうまれている。「兄」&「弟」はお互いに言葉で依存し成立している。一人っ子が母の出産により「弟」が生まれ、その瞬間に「兄」となるのだ。弟も妹もないのに「私は兄です」という人はいないでしょ。

「父」と「子」も同じ。僕自身は小さい時から「父」ではない。娘が生まれ、ある日突然「父」となり、娘はその時「子」になった。「父子」でさえも言葉の魔法でうみだされた幻の関係（フィクション）なのだ。

ゆえに「家族」もフィクション。

そして「学校」も言葉が生み出したフィクションなのだ。（竜樹の哲学によると）

入学式で突然「担任」そして「生徒」の役が与えられ僕らはそのルールに従って「卒業」に向かっていく。

僕が「空」を感じる時

僕は卒業式後の教室にめっちゃ「空」を感じる。竜樹風に説明するなら、卒業式を境に君たちと演じてきた「学校」というフィクションが消滅する。君たちは急に「生徒」じゃなくなって、僕も「先生」じゃなくなる。「誰もが」入学式に与えられた役（役割）を失い、何者でもなくなる。みんな何者でもなくなるから、教室や君の机も役から解放され「C3C という教室」が無くなり、名札を取っただけでもう誰のものでもない「机」だけが残る。すべてがあっけなく消えてしまうのだ。言葉の魔法でつながっていたすべてが消えるのだ。何ひとつこの世から無くなっていないのに、、、だ。この気持ち、ちょっと伝えにくい「空」。でも「虚無」ではない。

すがすがしくて、キラキラしていて透明な感じ。 僕が「空」を一番感じるときだ。

ここで気になるのは「空」とはどんな境地なのか。卒業式ですべての幻が消えてどうになってしまうのか。

「虚無」でないことはさっき言った。 僕がいつも感じるのは「縁」だ。

「縁」の関係性ですべてがつながっているというもの。

竜樹の「空」はここから「縁起」に発展していく。今日はここまで。

参考文献：教養としての東洋哲学 自分とかないから

☆10月（神無月）の行事予定・月訓『積極進取』

1	火	体育祭準備（1～4限） 予行（5、6限）	17	木	2学期中間試験③
2	水	MIKA-1 グランプリ（体育祭）	18	金	2学期中間試験④
3	木	QU アンケート予備日①・体育祭予備日①	19	土	受験対策講座
4	金	QU アンケート予備日②・体育祭予備日②	20	日	第2回漢字検定
5	土	受験対策講座	21	月	後期生徒会役員立候補受付開始
6	日	第2回英語検定（一次）・電工一種学科試験	22	火	執行部合同会
7	月	全校朝礼・チャレンジ0週	23	水	実力診断テスト（1～3限）
8	火		24	木	常任委員会
9	水	私学弁論大会	25	金	
10	木		26	土	
11	金		27	日	電工二種学科試験
12	土		28	月	全校朝礼
13	日		29	火	
14	月	スポーツの日 	30	水	
15	火	2学期中間試験①	31	木	
16	水	2学期中間試験②・各科コース説明会		金	

☆コラム 1学年の後半へ突入

1学年の登校予定日数は、191日間である。ちょうど半分を過ぎるのが、96日目となる10月7日（月）である。知らない土地を訪れるとき、往路の時間と比較し、復路については、距離は同じであるのに、時間の経過が早く感じられるものである。時を短く感じる後半こそ、前半よりも一日一日を大切に過そう。

～ 1st Grade Teacher Okubo ～